

# 青陵

## 卒業生の皆さまへ

世界的な新型コロナウイルス感染症(コロナウイルス禍)の蔓延により、戦後、経験したことの無い異例の1年となりました。さぞお疲れのことと思います。感染拡大防止のため、同窓会総会は本部、東京、近畿、九州ともに中止を余儀なくされ、同窓生の絆を深める場を奪われた寂しい年でした。

幸か不幸か紙面のスペースに余裕ができ、騒動の前に開かれた同期会など卒業生や関係者の集い、交流をできるだけ多く掲載しました。変わらぬ卒業生の活躍ぶりや恩師の動向など今号も情報満載でお届けします。お読みいただければ幸いです。

(編集室)

校長 高槻 信博(同窓会名誉会長)



同窓生の皆様方には平素からご支援を賜り感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、本校でもほとんどの行事が中止や縮小を余儀なくされています。しかし、このようなときだからこそ、生徒には社会に関心を持ち、将来、自分がどう生きるかを考えさせるチャンスだと言えます。

## 冬来たりなば春遠からじ

「総合的な探究の時間」という授業が週に一回あります。本校では、SDGsを中心テーマとして、様々なことを探究的に学習しています。活動が制限されている今、教養を高め、将来の社会と自分についてしっかりと考える時間を持ってほしいと思います。最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝をお祈りし、ご挨拶いたします。

同窓会副会長 小銭 和明(23期)



同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会運営に対して格別のご理解とご支援を賜り、誠に有難うございます。

さて、新型コロナウイルスの蔓延により、経済も社会もそしてわれわれ同窓会運営にも大きな影響を受けました。恒例の同窓会総会は本部、3支部ともすべて中止という苦渋の選択を迫られました。

加えて、倉敷は一昨年の西日本豪雨により、真備地区が甚大な被害を受け、まだ復興の途上にあります。

相次ぐ自然災害や新型コロナウイルスにより大変厳しい生活を余儀なくされておりますが、ここは青陵魂「文武不岐」のもと、皆さんで乗り越えていきましょう。必ずやピンチはチャンスとなって巡ってきます。頑張ってください。

ごあいさつ

## 頑張ろう。ピンチをチャンスに

# 恒例の本部総会 コロナ禍で中止

青陵高校同窓会(岡田展弘会長)は、令和2年3月28日に同校で臨時理事会・評議員会を開催しました。

冒頭、岡田会長から、現在新型コロナウイルス感染症が拡大している状況から、8月2日に予定していた本年度の本部同窓会総会について、出席会員の安全を考慮して中止したいとの緊急提案がありました。

出席者も同様の認識を持っており、長年にわたり続く恒例行事が中止となることは誠に残念ですが、異議なく決定しました。

今回役員改選はないものの、決算・予算と事業報告・事業計画の承認をどうするかという課題が残ります。これについては後日、正副会長が協議し方針を決定する旨伝えました。

来年の当番幹事は、今年当番の7と8の付く期がそのままスライドして務めることにしました。次の9と0の付く期も一緒にしてはどうかという提案があり、検討することになりました。

## 臨時理事会・評議員会で決定

次に本題である執行部から提案のあった「総会会費の値上げ」の件に移りました。現行の会費1人2,500円は「30年ぐらいい値上してはいないのではないか」(前会長)という状況に対し、近年同窓会収支が赤字となり不足分を同窓会本会計から繰り出す事態となっていることなどが報告されました。

また、会場を倉敷アイビースクエアの「フローラルコート」から本館に新設された「エメラルドホール」に変更したいという提案と併せ、会費を3,500円と4,000円に値上げした場合の収支試算が提示され、「将来的なことも考え4,000円にしたい」という執行部の提案を受け協議しました。

出席者の意見として、「値上げには賛成だが、一気に」

## 東京、近畿、九州の総会も中止

恒例の東京青陵会総会(令和2年6月6日)は4月に、近畿青陵会総会(同年5月31日)は3月に、九州青陵会総会(同年10月10日)は7月に、それぞれ中止を決定しました。

## 次回から会費4,000円にアップ

1,500円アップはどうか、「会場をエメラルドホールにするのが前提か」、「料理のメニューを減らして量を多くしては」などの意見が出ましたが、最終的に来年度以降の総会会費について4,000円の案で合意しました。

会費の値上げに伴い、執行部から当番幹事の参加人数の割り当て等について、柔軟な対応も検討する一との見解も示されました。

また、出席者から「同窓会だより 青陵」の件で、「家族にOBが多く、同じものが3、4部送られてくる。同封されている発行協力金の依頼について毎年払わなくてはいけないのか。どれぐらいい人が振り込んでいるのか」という質問があり、「卒業生約25,000人に配布し、約5%強の1,300人ぐらいいの協力をいただいています」という現状報告があり、「毎年でなくてもいいので、できる限り協力いただきたい」とお願いしました。

さらに事務局からこの件に関して、「現在250万円ほどの発行資金がありますが、協力金がこのままの状況が続けば計算上、この先約8年程度で資金が行き詰まることとなります」との話があり、他の高校では見られない内容の充実した「同窓会だより 青陵」をこれからも卒業生にお届けできるように改めて納入依頼をして会を終了しました。

## 決算・予算など理事の承認を得る

令和元年度、2年度の決算・予算・監査報告などを承認する臨時役員会を同2年8月29日に同校で開き、両年度の行事報告・計画を含め満場一致で原案通り仮承認されました。後日、各理事にこの結果をはがきで通知、承認をいただきました。

なお、同3年の総会を8月1日(日)に倉敷アイビースクエアのエメラルドホールで開催、今年の幹事をスライドさせ7・8期、さらに9・0の期、及び71、72期を当番幹事に決めました。

◇表紙の写真◇ 創立110周年記念事業として完成した中庭の「集いの広場」。詳しくは12面をお読みください。

## 同窓会報費 納入促進求める

# 寄託

## 矢尾 宏さん(16期) 母校へ300万円

博校長が同2年2月17日に訪問、県教育長名の感謝状を手渡しお礼を述べました。矢尾さんは「母校の小中学校、大学への寄付は既に終え、次は青陵に、と考えていました。お世話になった恩返しです」と話していました。

□：矢尾さんは倉敷市庄地区出身 横浜市在住。

このプロジェクトに必要な経費の大半を寄付してくれた同社(東京都千代田区)の矢尾さんを、高槻信

ター、タッチディスプレイ、上下スライドボード、ソファなどの備品を導入します。仲間との情報共有、意見交換、さらにプレゼンテーション(情報伝達)の練習や面接指導に活用する予定です。

### 「図書館拡充に活用」

### 校長が謝意

具体的には、館内にラーニングエリア(自主学習の場)とブラウジングエリア(書架の本探索)を新設、可動式テーブルや液晶プロジェクト

として、同3年度に実施します。

良い学習環境の充実を図る目的で数年前に始めた制度です。青陵高校では同事業に対応し「青陵生徒の探究を支える図書館整備プロジェクト」として、同3年度に実施します。

元三菱マテリアル社長で現相談役の矢尾宏さん(16期)が令和元年秋、岡山県教委の「ふるさと岡山山県教委の「ふるさと岡山学び舎」環境整備事業」に応募、母校の青陵高校を指定して300万円を寄付しました。ふるさと納税制度を活用、より良い学習環境の充実を図る目的で数年前に始めた制度です。青陵高校では同事業に対応し「青陵生徒の探究を支える図書館整備プロジェクト」として、同3年度に実施します。

## 倉敷市副市長に就任した原 孝史さん(28期)に聞く

元倉敷市建設局長原孝史(たかし)さん=28期=が令和2年6月、同市副市長に就任しました。青陵高校出身の同市助役・副市長はかつて松尾武司さん(7期)がおられました。確認は難しいですが、それ以来ではないかと思われます。原さんは前年、同市を退職し高梁川東西用水組合副管理者を務めていました。就任の抱負や青陵時代の思い出をうかがいました。

(聞き手は編集委員)

—原さん、倉敷市副市長就任おめでとうございます。

ありがとうございます。上司の高梁川東西用水組合管理者の伊東市長に突然呼ばれて、いきなり「副市長をしてください」と言われ驚きましたね。現役時代から建設畑一筋に歩み、西日本豪雨対策などで引き続きお役に立てるのならと思い、お引き受けしました。土木屋として地域発展の基礎づくりに頑張ります。

—高梁川東西用水組合

といえば、最近立派な100周年記念誌ができました。

記念誌は私が着任する前から編集作業をしていて建設局長の時代、執筆に参加、「100年の軌跡(全5章)」の項目を岡山大学大学院准教授、倉敷市文化財保護審議会委員と私の3人で分担、私は「第4章 高梁川東西用水の運営」、「第5章 高梁川東西用水の評価と今後について」の二章、つまり3分の1を担当しました。高梁川の水書を含めた歴史をたどりました。もともと九州工業大学で水理学を専攻、卒論のテーマに高梁川を取り上げようとしたぐらいで、5年前から本格的に高梁川を研究していたのがここで役立ちました。

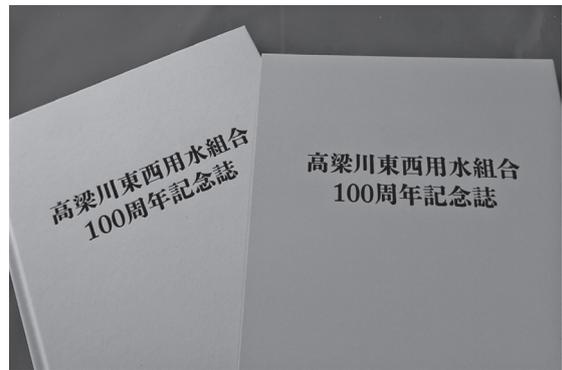
—青陵時代から理系志望でしょうね。

そうなんですが面白い話があってね、担任が日本史の中山先生ですよ。普通は数学か物理あたりでしょう

(笑い)。これが逆に良かったんです。もともと歴史好きで、先生の授業を興味深く聴き視野が広がりました。無駄なことは一つもないんですね。今回の記念誌づくりに貢献できたわけです。

—部活とか青陵祭はどうでしたか。

青陵の自由な校風にどっぷりつかって、運動会の応援とかブロックのジャンボ絵を描くなど存分に楽しみましたね。部活は卓球部でした。強くはないんですが、市役所の卓球同好会でずっと続けて50年になります。凝り性なんです。最近、野菜作りを始めました。



### 青陵の自由な校風にどっぷり

### 倉敷の都市づくりをやる!

執筆に携わった高梁川東西用水組合100周年記念誌

—一名前は「たかし」と読むんですね。

はい、「孝史」では一画足りないと言われ、「史」にしたそうです。学校時代よく間違われ、例えばハンコでも「史」で出来上がって来ましたね。名前の通り「吏員」(地方公務員)になりました(笑い)。

—最後に、改めて抱負をお聞きます。

黒四ダムと瀬戸大橋にあこがれ、若いころから「人として生まれたからには、でっかいものを残したい」という願望がありました。実務10年ぐらいでやっと受験資格のできる「技術士」の資格も持っています。でっかいもの、つまり倉敷の都市づくりをやる! というチャンスに巡り合いました。

—大変お忙しい中、ありがとうございました。ご健闘をお祈りします。

近畿青陵会常任幹事

大月 修 (19期)

兵庫県姫路市安田4-165-1-704  
〒670-0955 TEL 079-225-8030

大阪大学レーザー科学研究所

教授 白神 宏之 (26期)

大阪府吹田市山田丘2-6  
〒565-0871 TEL 06-6879-8753

近畿青陵会常任幹事

田中 均 (34期)

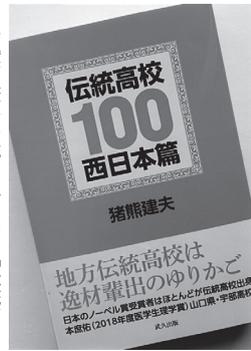
〒604-8341  
京都市中京区岩上町728-705

## トピックス

# 『伝統高校100 西日本篇』に青陵登場

地方伝統高校は逸材輩出のゆりかごというコンセプトで『伝統高校100』という本が令和元年11月、『東日本篇』と『西日本篇』の2冊、武久出版(東京)から発行されました。

2冊に各100校収録されています。早速、期待して『西日本篇』をチェックしてみると、わが母校、倉敷青陵高校が2ページにわたり掲載されていました。岡山県は取材に対応したと思われる津山、岡



青陵高校が掲載されている『伝統高校100 西日本篇』の表紙

山操山、西大寺と合わせ4校のみです。

記事の内容は「天領倉敷の観光スポットの近くにあり、校名は永遠の理想を追求する『青春の陵(おか)』という意味。前身の高等女学校・旧制中学校から戦後、新制高校に衣替えした時に命名した。

「知・徳・体の円満な発達を図り、激動の時代を生き抜くたくましい人間を育成する」という使命を掲げている。国立大学に現役だけで約200人が合格する。これは卒業生の60%を超えている。

## ノーベル賞候補・森和俊さん(28期)ら紹介

さらに、難関大学の合格者を増やすために「青藍会」という教員による支援チームを結成、その成果が出ていると、ありました。

主な卒業生として、唯一写真付きでノーベル賞候補・森和俊(28期)を筆頭に、窪田登(1期)、旺なつき(室山こずえ) 26期、水道橋博士(小野正芳) 33期 2冊から多彩な顔触れが紹介されています。

「同窓会だより 青陵」には、これらの方々にはすでに登場してもらいましたが、記事には植木宏明(6期)、土倉莞爾(13期)、林正子(25期)ら多くの名前があり、活躍ぶりを今後ぜひ披露していただきたく思います。「青藍会」の存在も知りませんでした。

青陵高校の威信を確認すると同時に、新情報を入手することができました。

(文中敬称略、編集室)

## 行動自粛をお願いします

## 早島町長の 中川です

全国的なコロナウイルス禍で早島町は、令和2年4月7日の政府の緊急事態宣言発出を受けて毎日午後5時、中川真寿男町長(24期)が防災行政無線を通じ全町民に行動自粛を一語一語ゆっくり語り掛けました。

ルの実践をお願いします」とのメッセージが響きわたりました。

岡山県の感染者24人(当時のうち3人が同町在住者)だったこともあり、危機感を訴えました。全面解除宣言された5月25日の直前まで注

## 中川真寿男さん(24期)

「ただ今、岡山県に新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、緊急事態宣言が出されています。不要不急の外出は控え手洗い、うがい、せきエチケットを心掛けましょう」

さらに、宣言延長後は「県境を越えた移動を控え、3つの密を避けマスクの着用、人との距離を保ち新しい生活スタイル

## 自ら町内放送

意喚起を続けました。

形が三角形のような早島町は、県内市町村で最も面積が狭く人口密度も高いため、23カ所の施設から町内一円に効率良くアナウンス、町民に感染防止を呼びかけました。

□…写真は防災行政無線ではありません。代用のイメージ写真です。



## 旺なつきさん(26期)主演動画



旺なつきさんの迫力あるステージの  
—コマ=インターネットより

素晴らしいムロ(旺なつき)の演技を見て。コロナウイルス禍の渦中の令和2年5月、編集室へ情報が入りました。元タカラジェンヌの女優・旺なつき(本名 室山こずえ)さん 26期 2冊の主演作がネット配信されるというニュースです。情報を寄せてくれたのは同期の鷺見(旧姓

## 舞台人や劇場支援で有料配信

江本)京子さん 山本捷平文学選奨受賞作家 2冊で、「巣ごもり生活に感動と潤い」という言葉を添えてありました。コロナウイルス禍の対応策として、ネット配信による収益を苦境にある全国の舞台人や劇場に分配しサポートする目的です。指示に従い、「演劇支援プロジェクト」でネット検索、動画にたどりつきました。内容は旺さんが2016(平成28)年に主演した平成28年度文化庁芸術祭参加公演『劇場 名は女優(サマセット・モーム原作)』です。女優役を2時間余り熱演、たっぷり楽しませてくれました。同月の半月間、3000円で見放題でした。動画とはいえ、芸歴45年の旺さんの迫力ある演技が存分に伝わり、鷺見さんのPR通りでした。本格的な生のステージを見る機会はありません。感謝するとともに、旺なつきさんの一層の活躍を祈ります。



青陵から作家誕生！平成31年1月に見事、第14回笠岡市木山捷平文学選奨短編小説賞を受賞した人がいます。26期の鷺見(旧姓)江本京子さんです。全国公募の276編の中から選ばれました。

### 東日本大震災テーマ『鞆の中』

を志した高校生  
のころの夢に向  
かって今後も創

木山捷平文学選奨は坪田譲治文学賞、内田百閒文学賞と並ぶ岡山県を代表する文学賞の一つで、いずれも岡山県の生んだ有名作家の顕彰を目的に全国公募しています。新聞記事によると、受賞作『鞆の中』は主人公と、東日本大震災で何もかも失った姉のために自己犠牲も

### 鷺見(旧姓)京子さん(26期)

作を続けようと思います」と、喜びを語っていました。長年、小学校教諭を務め粒江小学校校長を最後に定年退職しました。自ら再スタートラインを決め週1回、大阪文学学校に新幹線通学を始めた直後の朗報でした。仲間に「うわー、ビギナーズラック！」と冷やかされたそうです。在学中は美術部に所属していました。絵心と文才の二刀流・鷺見さん、おめでとうございました。

## 祝

### 真備の豪雨禍を乗り越えた 橋本里香さんの記事



真備で豪雨被災 ピアニスト橋本さん

### 演奏活動本格再

真備町の西日本豪雨で被災、「感謝の思い 旋律に」という記事が令和2年3月8日付山陽新聞に掲載されました。被災者のピアニスト橋本里香さん(53期)です。記事によれば、妊娠中だった橋本さんは真備町の自宅が床上浸水、夫と長男と一緒に2階のベランダに避難、ボートで救出されるという遭難寸前の際どい被害に遭遇しました。

### ピアニスト 橋本里香さん(53期)

ピアノや楽譜などすべてを失いましたが、演奏家仲間の援助で1年余り後の同元秋、大阪で被災後初のソロコンサートを開き、ステージへの復帰を果たしました。

同2年3月には地元、倉敷公民館で「ありがとうコンサート」を開く予定でしたがコロナウイルス禍のため、やむなく中止しました。

橋本さんは大阪芸術大学へ特待生として入学、首席で卒業、大学院を修了しました。大学在学中、交換留学生としてウィーン国立音楽大学で学び、平成21年に大阪と岡山でデビューリサイタルを開きました。岡山フィルハーモニック管弦楽団と共演するなど実績を積み、現在、岡山県演奏家協会、倉敷音楽協会の各会員として幅広く演奏活動をしています。

ピアノ歴32年の橋本さんは、本格的な活動に向け「もっとソロの道を深めていきたい」と意欲を燃やしています。

被災を乗り越えた橋本さんにエールを送りましょう。同じように被災された多くの同窓生、関係者にも！

□…橋本さんは令和2年10月、倉敷市文化連盟賞の奨励賞を受賞しました。

### 小河原常美さん(15家庭科)

倉敷は伝統的に陶芸家が多く、青陵卒業生も大勢携わっています。その中の窯のひとつ、青陵高校にほど近い羽島焼を訪ねました。姉とともに家業を継いだ小河原常美さん(15期・家庭科)です。

小さい時から父(虎吉さん=初代)の仕事場で遊んで大きくなりましたが、この世界に入ることは考えていませんでした。「きっかけ？ うーん」と言いながら会社勤めの後、この道に入り47年になります。

父の作品を手本に「見様見真似」で始めたのです。主に、粘りがあって熱に耐えられる倉敷の土をこねて、皿や湯のみ、コーヒーカップなど実用的な食器類を中心に作陶します。受け継いだ灰釉を軸に青や白などはっきりとした色使いが特徴です。

6、7月ごろと12月の年2回、窯出し展を開いて展示・即売をしますが、県内から多くの焼き物ファンが訪れます。

登り窯の時代は窯入れの前、3日分ほどの薪割りをする作業がありました。汗だくになり手間がかかるため15年ほど前



羽島焼と取り組んで47年の小河原常美さん=令和元年12月

からガス窯に切り替えましたが、「温度変化による味わい深い登り窯の作品にはかないません」と、悔しそうです。

「もうひと頑張りしようかな、とは思いますがね」と言いながら、令和2年4月には天満屋倉敷店で初の本格的な個展を開き、花瓶や皿、食器など力作約220点を並べ愛好家の注目を集めました。

ベテランにして初の個展には訳があります。父が外村吉之介さん(倉敷民芸館初代館長)から言われた「個展はするな」「中央(東京)には(作品を)出すな」との忠告を守ったからです。各方面の賞にもほとんど応募していません。

羽島焼は「ロクロの名人」と言われた虎吉さんが酒津焼から独立、復員後の昭和21年に窯を開いて70年を超えました。父の死後、姉夫婦と3人で守ってきた羽島焼ですが、後継者はいないそうです。見方を変えれば、小河原さんの作品の価値は益々高まるかもしれません。

□…小河原さんは在学中、バドミントン部で中国大会へ出場しました。ダブルスで山陽女子高の湯木博恵さん(のち世界の女王)とも対戦しました。



### 47年 父を見習い 羽島焼の

児島雛めぐりイベントに向けた雛飾りを終えてくつろぐ中埜時子さん  
＝野崎家別邸迨暇堂



同期4人 マンドリン賛助出演

してから段飾りのセッティングを念入りに行います。人形の顔が入れ替わっていたりするので細かくチェックします。準備に約2週間かかりますね。

御殿雛は地域の皆さんの提供です。昭和30年から45年ごろに家庭で飾っていた組み立て式で、非常に精巧にできています。これは世界に誇る日本独特の人形文化ですね。

期間中の土・日・祝日には「マンドリン五人囃子」の演奏が聴けますよ。この中には私の青陵同期で石井陽二、平松健三、牧野博通、渡辺洋子の4人の皆さんが出演してくれれます。

児島のまちをにぎやかにと、私が児島おかみさん会の会長をしていた平成12年ごろ、野崎家のご協力を取り付けて立ち上げました。いわばイベント仕掛人です(笑)。

かつて仙台で開かれた全国おかみさん交流サミットの席上、わが児島おかみさん会の活動が評価され、「やる気賞」のジャンボこけしをいただきました。

現在は自治会や婦人会、地元高校などで児島雛めぐり実行委員会が結成され、その主力メンバーとして活動しています。市内外から1日で1600人も来てくださったこともあります。おかげさまで令和2年に第21回を迎えました。

庭や茶室のある

児島で発案「倉敷雛めぐり」の魁に

うわー！  
会場に一步、足を踏み入ると皆さん驚いてくれます。児島の塩田王・野崎家別邸迨暇堂百畳間に、緋毛せんこの段飾り御殿雛30セットを一堂にずらりと並べるんですよ。

毎年3月の雛まつり前後、私が名付けた「おひな同窓会」という児島雛めぐりイベントのメイン会場は、春の訪れを告げる風物詩としてすっかり定着しました。その後、全市に広がった「倉敷雛めぐり」の魁となったんです。会場は目がくらむような派手な空間ですよ。

百畳間の大掃除を

迨暇堂は日ごろは非公開なので、このイベントが見学のチャンスですよ。ぜひ、お見逃しなく。

青陵時代は体操部でした。短大を卒業、20歳で倉敷駅前の時計店から児島味野の同業者に嫁いで今は夫と息子で店を切り盛りしています。「時子」と名付けられ、自分でも勝手に時計屋さんに嫁ぐものと決めていたんです。おかしいでしょ(笑)。

趣味は結婚後に始めた仲人です。まとめた数は、うーん30組ぐらいかなあ。今は女性がOKすれば成立ですね。(令和2年2月談)

さん賞を受賞した「やる気賞」のジャンボこけし



ます  
ます  
ます  
元氣

中埜(旧姓岡崎)時子 19期 2です

私の青陵時代

10期 藤原(旧姓安原)久美子

古いアルバムをめくっていると、卒業式の日に校門で撮った写真が出てきました。誰に撮ってもらったか覚えていません。可愛い盛りですよ(笑)。

雨の日は早高から早島のバス路線に出て通学しました。小学校時代から習字が好きで、熱心な先生がいて自由参加の書道愛好グループで稽古、帯江(現多津美)中学校時代も競書大会に出て出品しました。大した賞はもらっていませんが、青陵でも書道部に入っていました。

遠投が得意だったので担任の中原先生から「ソフトボール部に入らんか」と誘われましたが、メンバーを見ると体力のある人ばかりで尻込みして入りませんでした(笑)。

中学1年生のころ新聞部に入っていました。3年

卒業式の日に校門で撮った思い出の1枚



生部員に溝手博義さん、鴨井昭允さん＝ともに8期＝がいました。確か、鴨井さんが「帯中学報」と名付けたと思います。普通は「一新聞」でしょう。「一学報」と名付けるなんてね、センスの良さに驚きましたね。

ソフトボールはあきらめました。現在はグランドゴルフ三昧です。茶屋町の3つの老人会合同

ソフト部に誘われるも尻込み

で地区の広場に集まります。月曜日から金曜日までほぼ毎日参加、午前中に4ゲームをこなして帰ります。グランドゴルフを楽しみながら仲間とおしゃべり、春夏秋冬、年4回はこの仲間と昼御飯を食べに出かけます。

後輩のジオラマの力作を眺める須山寛子さん



## 物語館から倉敷の魅力を発信

倉敷物語館って聞かれたことがありますか？ 美観地区へ入ってすぐ、大きく右へカーブする北の角地にあります。立派な長屋門や白壁の蔵が見えます。一見、映画のセットみたいですよ。

平成21年に倉敷市が町屋の旧東大橋家住宅を改修、指定

# こん にちは

須山(旧姓)寛子 47期 です

### 「幻想あかり」を作りイベントに

管理者の倉敷まちづくり(株)が運営している観光施設です。観光とまちづくりに興味を持ち倉敷の魅力を発信しよう、この会社のスタッフになって9年になります。和室や会議室、多目的ホールの貸室手続き、イベント企画、観光案内が主な役割です。  
カルタ大会や子ども備中神楽、縁日など季節に合わせて催し、四季を地元民が観光客と一緒に味わってもらおうに工夫しています。春、秋の観光シーズン、夏休みなど年中来客があります。  
これは私と夫の趣味ですが、インテリアデザインの「幻想あかり」に凝っています。紙とアクリルで切りや和傘を作り、中からLEDで照らすと和のあかりの空間が演出できます。

作品は毎年3月に開く「倉敷春宵あかり」の当館の展示物に登場させてもらっています。出来栄を褒めてくれた京都の旅館に差し上げたこともあります。実は「和あかり創造集団倉敷光作所」としやれた名前前でこっそり自営をやっています(笑)。

青陵時代の部活？ 卓球部のほとんど幽霊部員、運動会は走るのが得意でないので応援部員でしたね。同期会はまだ開いたことがありません。

### 青陵生制作 ジオラマ展示

それより、タイムリーな話があるんですよ。館内に青陵生の作った美観地区のジオラマを今月から展示しています。1年1組が令和元年9月の青陵祭で作ったもので、縦横ともに2層あります。美観地区を含め鶴形山から南部を見下ろした壮大なスケールです。あつ倉敷物語館は、ここですね。正月明けの1月中旬まで飾ります。観光客は「よく調べて精巧に作ったな」と驚いたような顔をしてシャッターを切りますね。

皆さん、倉敷物語館へ一度立ち寄ってください。お待ちしております。(令和元年10月談)



美観地区の観光案内の拠点、倉敷物語館

## 後 日 談

### 美観地区のジオラマ 青陵生がテレビ出演

後日談があります。

青陵祭で美観地区のジオラマを制作した青陵高校生が令和元年12月7日、テレビのニュース番組に出演しました。

1年1組の男子生徒2人が、展示中の倉敷物語館でジオラマ制作の目的や苦労を話し、活動ぶりをアピールしました。



美観地区のジオラマを作ってテレビ出演した青陵高校生 =テレビ画面より

「新聞はどのように人権に寄り添っているか」

毎年恒例の東陽中学校区人権学習推進委員会主催「弁論の会」が令和元年12月7日、茶屋町公民館で開かれ、講師の一人に元山陽新聞記者で本紙「同窓会」より青陵編集主幹・佐藤豊行さん(18期)が招かれました。佐藤さんは「報道と人権」と題し、「新聞はどのように人権に寄り添っているか」という趣旨で、極めて身近な例を挙げながら約120人の参加者を前に熱のこもった話を展開しました。

前科というのはすでに罪を償った人なのですが、「住所不定、前科3犯、無職○○○○を逮捕した」というような書き方をした話です。要するに、犯罪履歴をもう一度活字にするか、という話です。

私が入社して10年後ぐらいに、「前科」という言葉は記事から消えました。新聞社が消したんではないんですね、警察が発表しなくなったんです。警察も人権に配慮したんでしょ。警察が発表しない以上、新聞記事には書けません。

自殺の記事もその前後に掲載しなくなりました。公的な立場にある政治家などを除いて、現在は記事にしていま

「前科」、自殺記事、合格者発表やめる

最近の話をしま

本日は人権学習推進委員会に参加させていただきましてありがとうございます。早高の佐藤と申します。

10年以上前になりますか、当時新聞社に勤務してまして、山陽新聞なんです。新聞社には小学生からお年寄りまで多くの人が研修、見学、インターンシップに来られます。

ある時、研修室に行くとき東陽中学校の生徒が14、5人来ておられました。「こりゃあえいわ」と張り切って自己紹介をしたんです。私は(東陽中学校区)豊洲小学校出身で早高ですと

元山陽新聞記者 佐藤豊行さん(18期)

講演する佐藤豊行さん＝茶屋町公民館



【略歴】さとう・とよゆき 倉敷市生まれ。立命館大学法学部を卒業後、山陽新聞社に入社。記者として38年間にわたり取材・編集に携わる。定年退職後、衆議院議員秘書、倉敷市情報公開・個人情報保護審議会委員、岡山県男女共同参画審議会委員などを務める。「同窓会」より「青陵」は第44号から編集主幹。編著書5冊。映画出演2本。

犠牲者の名前掲載いまだ是非論議

言った途端に、ある生徒が「早沖ですか？」と勝手に翻訳してくれました。学校のなかでどうなってるのかなあ、早高も早沖も区別がついてないのかとびびりして軽い脳震とうが起きました(笑)。まあ、早高の知名度が高くないんでしょうねえ。

ということですが、要するに「マスコミ、新聞はどのように人権を守っているか、寄り添っているか」ということを、取材、紙面づくりを通して具体的な例を挙げながら話したいと思います。

新聞は明治3年、横浜の生まれであります。日刊新聞の第1号「横浜毎日新聞」が誕生した年ですが、これを基準にしています。山陽新聞はこれよりやや遅れて明治12年に創刊しました。ちょうど今年140年になります。

私が入社した昭和46年、1971年のこの事件・事故の記事の中に「前科」という言葉がありました。前、後ろの「前」、科目の「科」と書くんですが、もう若い人は初めて聞く言葉かもしれません。刑事ドラマの台詞でも最近聞かなくなりましたねえ。

記事を読んでいると、列車事故の場合、「男性が電車と接触した」とか「女性が線路の中に入った」とか、そういう事件をおわせるような表現にとどめてあります。

今から24、5年前まで「合格者の発表」というのがありました。県立高校全部、大学は国立、公立、私立のほとんどです。秋ごろから翌年4月の入学式直前まで毎日載りました。

新聞の側から言うとな、おしいしセールスポイントなんです。これもあつという間になくなりました。あるきつかけがあつたんですね。高梁市の高校生だったと記憶してらんです

が、「もうやめてほしい」という投書を新聞社に出したんですよ。山陽新聞ではありません。これを機に全国の新聞があつという間に掲載をやめました。新聞社って、すんなり言うことを聞かないんですね、言ってみるもんですね(笑)。

うまく合格した人は新聞に名前が載つてうれいんですけど、うまくいかなかった人は気の毒ですよ。昔なら井戸端会議、今ならスーパの立ち話ですか、「あそこの子は○○の学校に名前があつたけど、どこそこの子は名前がなかった。どこへいったんじゃろるか？」というね、噂話で盛り上がるんですけど、大きなお世話です(笑)。

普通、警察は名前の発表を機械的に行うんですが、今回の京都府警の対応は実に慎重で丁寧でした。警察がこんな対応をするのは珍しいことです。

事件があまりにも悲惨だったというのが理由だと思えます。今後どう対応するか、各県の警察の内部でも意見が分かれてきます。新聞は今まで通り名前を公表してもいい。事件の被害者、被害者、犠牲者の固有名詞は記事の核心部分です。これが無いと気の抜けたビールのような記事になります。読者はどうか。知る権利が奪われたと言ってしまう。逆に「こんな悲惨な事件なんで、もう名前の発表はいいんじゃないか」という同情論があります。遺族はどうか。「このような悲惨な事件は二度と起きてほしくない。○○には悪いが新聞に名前を載せることで事件の事実をみんなに知ってもらいたい」という前向きな人もいれば、「もう勘弁してほしい」という遺族もいます。

このように、立場や考え方により意見はさまざまです。今後、どのように動いていくのか、警察と新聞の対応、世論の動向が注目されると思います。

ほんのわずかな例を挙げましたが、このように新聞は社会の動きをにらみ、記事の微調整をしながら人権に配慮した新聞づくりをしているところです。

以上で終わります。ありがとうございます。

五輪メダリスト高橋大輔選手らを育てた  
名コーチ 佐々木美行さん (26期)

男子フィギュアスケート初の五輪メダリスト高橋大輔選手(倉敷市出身)らを育てた名コーチ佐々木美行さん(26期)の講演会が、令和元年7月28日、くらしき健康福祉プラザで開催されました。「トップアスリートを育てたコーチが実践! 生涯現役術」と題して、約150人の聴衆を前に1時間にわたリユーモアを交え分かりやすく軽やかに語りかけました。

実は昨年の今ごろ予定していた講演なんです、倉敷の7月豪雨で1年延期になりました。今日も午前中、岡山県スケート連盟の総会があり、強化選手をどう選ぶかという話になり、活躍した選手の表彰式もありました。

ということで時間がなく、パンをかじりながらこの会場へ滑り込みました(笑い)。まあ、ここは町内会みたいなものですから気楽にしゃべらせていただきます。

私は健康維持の特別な運動はしていません。生活の中で、ついでにできることを実践しています。

朝起きる前に布団やベッドで体のアイドリングをします。仰向けになって上に向けた両手足をぶらぶらさせるゴキブリ体操、真っ直ぐ伸ばした体を左右に大きく動かすダンゴ虫、ネコの伸びのように上半身を思いっきり伸ばす運動がいいですね。

できるだけ歩くようにしています。この会場の5階までエレベーターに乗らず階段を上がりました。よくイオンに買い物に行きます。買い物をする前に店の中をウォーキングします。前を歩いている人を次々追い抜くんですね。早歩きと快感が得られます。

よく走ります。まだ教員(小学校)を続けていますが、廊下を「先生、走っとる」と言われ、「先生は別!」「今、救急車!」と言って言い逃れをします(笑い)。

子どもを見ていると無駄な動きが多いんですよ。この無駄な動きがいいトレーニングなんですね。私の「先生、は実は子どもです。私もね、縄跳びの二重跳びと逆上がり、フラフープができなくなったら先生を辞めようと思っています。

立ち話をします。その時に片足で1分、つま先立ちをします。学校でも、校長先生の話って長いんでね(笑い)、この時、こっそりつま先立ちをします。

車の運転中、信号待ちがあるでしょう。それぞれの足を外側、内側に曲げる小さな運動をします。また、頭上で両手を合わ



講演する佐々木美行さん＝くらしき健康福祉プラザ

「略歴」ささき・みゆき 倉敷市生まれ。岡山大学時代にフィギュアスケート選手として活躍した。小学校教諭の傍ら、平成5年、倉敷フィギュアスケートティングクラブを設立。現在まで26年にわたり後進の指導を続け、高橋大輔選手ら2人の五輪選手を育てた。岡山県スポーツ協会理事、岡山県スケート連盟フィギュア部長などを務めている。

生活の中で体操や歩行を

せた後、体の側面(風車のように)それぞれの手を逆方向にぐるぐる回します。これで両脇の筋が5歳若返りますよ。両手を後ろへそらして肩甲骨をくっつける運動もいいですよ。これ、「健康のコツ」です(笑い)。

私はおいしい餃子を取り寄せて食べています。周りの人が「いいな」と言ってくれば赤い服も着ます。元気になれますね。年3回ぐらい山登りをして日常と違った空間と時間をつくります。

倉敷の学校給食はバランス良く作られています。決まった時間に食べられるので健康的です。

脳トレも大切です。心のケアとしてしゃべったり読んだり、計算したりね。

気にするのは年齢や体重、血圧ではなく筋肉量と骨量を落とさないようにすることです。日常のわずかな実践と学校給食のおかげで私の体脂肪率は(男性並みの)18%、今がベストの体形です。

今できることをマイペースで楽しく続けることです。あきらめず自然体で取り組んでください。

私は教職で稼いでスケートにつぎ込んできましたが(笑い)、今後の目標は高橋大輔、田中刑事の両選手に続く3人目の五輪選手を育てること。10年仕事ですね。それともっと多くの大人にスケートを体験してもらうことです。

高橋選手がバンクーバー五輪で銅メダルを獲った時のように、輝ける瞬間を目指して楽しい人生を送ってください。



教え子の高橋大輔さん(手前右)と田中刑事さんとの3ショット(平成18年1月(山陽新聞より))

気分転換や脳トレマイペースで

## コロナ禍で休校、修学旅行や部活に影響

## 縮小青陵祭「雲外蒼天」逆境からの挑戦

令和2年は3月から新型コロナウイルス感染症に苦しめられ、通常ではない行動を強いられました。休校が続き不安を感じる生徒も多くいました。生徒の楽しみである球技大会や修学旅行、部活動も大きな影響を受けました。部活動では全国大会も開催されず、3年生は後輩たちにその勇姿を応援してもらおうことなく、高校部活動の区切りを迎えなければならなくなりました。

そんな状況の中でしたが、2020青陵祭は逆境から立ち上がろうという思いを込めたテーマ「雲外蒼天」のもとで開催しました。決行を決めてから当日まで、感染

症対策を考えながらイベントを企画し運営した生徒の姿には感動させられました。例年は歓声の上がるオープニングやイベントでありましたが、マスクを着用し、お互いの距離感を保ちながら静かに始めました。リモートオープニングや各イベントでたくさんの工夫がありました。体育館には大型冷房装置を設置してもらい、常時換気をした状況で例年よりも涼しく開催できました。体育の部では、応援席の拡大

とテントの増設で熱中症・感染症対策を行い、伝統のブロック演技も工夫したやり方で行いました。例年より縮小した青陵祭になりましたが充実していました。自らが行事を考えて運営し開催することができ、生徒たちは充実感を持つことができました。この経験は、これからの日常生活に役立つ考え、行動につながり、生徒たちを支えてくれる力になると思います。コロナ禍が収束し日常生活が安心して送れる時を迎えられるように、今、学校生活でできることを行っています。

青陵祭のオープニングでテーマを描く書道部のパフォーマンス  
令和2年9月2日

## 共通テスト1月16、17日挑戦

## 進路生活

### 2020年入試 主な合格大学 (既卒含む)

国立		私立	
北海道大	2	慶応大	1
東北大	1	中央大	8
お茶の水女子大	1	東京理科大	4
東京大	1	明治大	7
東京工業大	1	早稲田大	8
一橋大	1	青山学院大	2
横浜国立大	2	立教大	4
京都大	5	津田塾大	1
大阪大	11	同志社大	30
神戸大	2	立命館大	58
奈良女子大	3	関西大	22
岡山大	71	関西学院大	23
広島大	7	近畿大	50
香川大	18	岡山理科大	42
愛媛大	15	川崎医療福祉大	32
九州大	15	清心女子大	55

(令和2年度学校要覧より)

## 早慶東理13、関関同立133人

進路指導課長 田中 誠一郎

令和元年度は、前年度よりも16人増加し、244人(現浪込み)が国公立大学に合格しました。難関大学・医歯薬の合格者数は45人で、特に医学部医学科には岡山大学をはじめ4人が合格しました。生徒の志望を高めそれを貫かせる進路指導の成果と考えています。

現在、前年度からの入試改革の混乱に加え新型コロナ禍も相まって、例年夏には出揃う各大学の入試要項すら確定しない非常事態が続いています。「大学入学共通テスト」は、2つの日程(特例追試を除く)での実施が決まりました。

青陵高校では、現状で授業進度等の遅れがないことや、第2日程では国公立出願や前期試験までの準備期間が極端に短くなること、私立大学の入試に影響することなど諸条件を検討し、原則1月16日、17日での受験を考えています。



資格・検定試験や各種コンテスト、部活動の諸大会の多くが中止になり、本年度の入試では特例措置などが講じられるケースも多くなっています。入試日程の公表も遅れ、感染予防対策が必要となる面接などの試験の実施形態がまだ「検討中」の大学も多くあります。

横浜国立大学が個別試験を実施しないことは大きなニュースとなりましたし、地元岡山大学でも総合型入試(従来のAO入試)等でも変更点があります。これまで以上に各大学のホームページ等で最新の情報を収集する姿勢が必要となります。

さらに、先日「JAPAN e-Portfolio」の運用停止というニュースが流れました。誤解のないようお願いしたいのですが、受験への利活用を予定していたシステムが廃止となっただけで、入試における主体性評価がなくなったわけではありません。主体的学習態度を多面的に評価するねらいで、一般入試でも「活動報告書」等を要求する大学は増えています。

青陵高校では、引き続きポートフォリオを記録する指導を行っています。高質な学力の養成を中心に、どのような状況下でも自分の力を発揮でき、志望を実現できるたくましい生徒になるよう進路指導の充実に努めてまいります。

OB・OGの皆様には、引き続きご理解、ご支援の程よろしくお願いたします。

# 在学6年、母校勤務16年

## 鴨川(旧姓)恵美子

＝国語、2期卒業生＝

青陵高校へは22年間通いました。倉敷高等女学校(倉女)へ入学、男女共学を経験することなく青陵2期生として卒業(6年間)しました。長じて、岡山県の高校国語教師となり、最後に母校へ勤務(16年間)、生徒と教師を合わせた年数がこうなります。

一番「仕事をした」と自負できるのは、編集長として「創立80周年記念写真資料集」をまとめたことです。「校誌・青陵」の創刊10周年記念号と14号に「記念誌のできあがるまで」を載せました。

特徴の一つは校庭の樹木調査です。生物部に依頼したところ、顧問と部員は一本一本を蚊の猛襲と闘いながら、カウンターを手に総本数を調べ上げました。なんと2160本あり、その分布図を記念誌の扉ページに入れました。表紙は黒、ヒロム杉のデザインを白抜きにしました。斬新！美術担当の編集員の作でした。



毎日ピアノレッスンに励む鴨川恵美子先生(平成21年、自宅)

当時のエピソードですが、私が授業中に、雑談で校内の樹木のことを話したせいか、昼休みに男子生徒が、旧同窓会館の横にあった樹(き)の回りを「伐(き)るな！伐るな！」とデモ行進してました。その樹は伐られるのを免れたとか…。

2006年、「学校の木」(吉備人出版)が上梓され、青陵の木も「伝統を形にしたもの」として取り上げられています。玄関前の植え込みには、80周年の記念事業で「十三本の松」の記念碑が建立されました。碑文を書いたのは私です。良くも悪くも当時の私の字です。

そして今、87歳、思わぬ高齢となりました。私たち2期生女子は、傘寿の最後の同窓会を7年前に開催したところ、全国から92人が馳せ参じました。

私は65歳で夫と死別、二十余年のひとり暮らしです。ピアノ、水泳、料理、洋裁、着物の着付け、パソコン、マジックなど、「教える」側から「教わる」側の楽しさを味わいました。

77歳で脳梗塞発症、以後、骨折を繰り返し、自分の体を御することが難しくなりました。

でも幼い頃からの憧れのピアノは続けていて、脳トレを意識し、練習は毎日欠かしません。月2回は先生に自宅まで来ていただき、レッスンを続けています。年1回のピアノ発表会は市立美術館3階講堂です。最高齢として病後も連続11回出演しています。

時に弱音を吐いては教え子さんたちに、「先生が目標よ」と背中を押されます。プラス思考を心がけています。

時代は変遷、機器の発達目は目まぐるしく、IT社会は高齢者には適応しにくいです。「遙くも遠く来つものかな」一。土佐日記の紀貫之の感慨と同じです。

日本で最初にトーキー映画を作った監督で、俳人でもあった五所平之助の句で締めくくります。私の好きな句です。

「生きることは一筋がよし寒椿」

## 寄稿

### 青陵生3人トップバッターで質問

岡山県議会議員に県政の課題をただし、若者らしい建設的な政策を提案する「高校生議会」が令和元年12月17日、県議会本会議場で開かれました。県議会が選挙の18歳投票率を向上させようと、18年ぶり

に開きました。議会には県内20校から約130人、青陵からは1、2年生7人が参加しました。各校の代表者が

### 無電柱化推進、水害対策で論陣

次々登壇、堂々と論陣を張りましたが、そのトップバッターを青陵生が担いました。

1年三橋未来(みつはしみく)さんが「岡山県無電柱化推進計画の意義と電柱の減少予想、その予算」、再質

問として、同武部好珠(このみ)さんが「無電柱化の優先着手区間終了後の工事施行基準」について、さらに、同石原美海(みみ)さんが「西日本豪雨の小田川工事未了期間の水害対策について堂々と熱弁を振るいました。」

県議会の市村(いむら)土木委員長が3人の質問に対し、「円滑な通行と景観形成のためです。優先着手区間を10年計画で行いますが、最終的には約9000本を撤去します。予算は無電柱化の方法によるので

確定していませんが、低コスト化を議論します」「社会情勢を勘案して整備区間を決めます」「水位計や河川監視カメラを増設、水位情報や河川の様子をインターネットによりリアルタイムで確認できる環境を整えます。ハード・ソフト両面での対策を考えていきます」という真剣な答弁を引き出しました。

これらの質問は、傍聴席いっぱい詰めた出陣場の生徒や先生らの共感を得ました。この日の青陵生は議会のルールを实地に学び、社会の仕組みの一端を体験した貴重な一日となりました。

## 岡山県高校生議会

青陵生がトップバッターで質問した岡山県高校生議会＝令和元年12月18日付山陽新聞



□：学年は当時です。

## 毎日ピアノ、発表会に出演

## 剣道部旗を新調「戦気」贈る

役員に贈りました。

25年前に作った部旗が最近、傷みが進んでいることが分かった剣友会で相談、早速新調することを決めました。

式にはOB、現役員ら12人が出席しました。世話をしたOB渡辺英気さん(26期)が経緯を説明した後、有門知優(ありかど・ちひら)主将(12年生)に部旗を手渡ししました。有門主将が「ありがとう。11月の新人戦では良い結果を残せませ

んでしたが、今後は新しい「戦気」を揮毫した顧問の小脇友洋先生は「戦気の好きな言葉で、剣豪宮本武蔵の書物の中に、つまり動かない心構えという意味です」と説明しました。



剣友会から贈られた新しい部旗

## 部活OB会だより

旗に恥じぬよう頑張ります」とお礼の言葉を述べました。

新しい旗は縦190cm、横29.5cmです。前の旗とほぼ同じ大きさですが、ダイダイ色から濃紺地に白抜きで大きく「戦気」と書き、校章と剣道部の名前を入れています。前の旗の「闘魂」を一新しました。製作費は6万6000円です。

部旗は試合会場では規定により掲示できないので、常時武道場に掲げます。「戦気」を揮毫した顧問の小脇友洋先生は「戦気の好きな言葉で、剣豪宮本武蔵の書物の中に、つまり動かない心構えという意味です」と説明しました。



部旗更新贈呈式に出席したOB(現役員)ら

# 東京五輪物語

1964 - 2019 - 2020

## 文化交流②

### 各国選手を招いた歌声喫茶

# 「白国の歌」に大歓声

「たぐよ」をオリンピックの「たぐよ」。1964年10月の東京五輪期間中、東京・新宿の歌声喫茶「灯」には、各国の選手が招かれた。

「イタリア選手が来た時が一番盛り上がった」。舞台上、リクエストに応えながら歌うステージーリーダーだった大崎卓さん(80)にとって、東京五輪の思い出といえは競技より歌声だ。歌声喫茶に行列ができていた時代。大崎さんは「たぐよ」と呼ばれ、レパートリーは3千曲。世界の民謡が得意だった。フランスやスウェーデンの選手たちの前でそれぞれの国の歌を日本語や各国の言葉で披露すると、大歓声が上がった。

7歳のとき、旧満州(中国東北部)で難火に巻き込まれ、右耳の聴力を失った。逃げ歩き、たどり着いた朝鮮半島の集落で食料をもらい、朝鮮語の歌を教わった。「意味はわからない。でも、歌にとても励まされた。その歌を今でもはっきりと歌うことができる」。

東京大学に進学し、歌声喫茶の客席で歌っていた。声がいいとスカウトされ、舞台上立つようになった。歌声喫茶で知り合った妻の文枝さん(77)は



大崎卓さん



「声量があつて、心に染みる声なんです」と話す。五輪から十数年後にふるさと岡山県に戻つてからは、会計事務所勤務の傍ら、カラオケ教室の先生になった。これまでに指導した生徒は約500人、10人ほどがプロになった。年齢を重ね、一体は調子の悪いところばかり。ただ、歌うと背筋が伸びる。「歌には力がある。2020年の五輪も日本に来る選手たちを色々な形で応援できたいですね」。

## 56年前に躍動 大崎卓さん(8期)

わが国2度目の五輪、2020年東京五輪(7月～8月)は、目前に迫った同年3月、世界に蔓延したコロナウイルス禍のため、やむなく翌年に延期となりました。延期は史上初のことで、期待した国民や出場を目指したアスリートには、とても残念な成り行きとなりました。

そこで、56年前の前回東京五輪にちなむ話題を紹介しましょう。

期間中、各国の選手と歌声を通じて交歓した人が青陵OBにいます。8期の大崎卓(たく)さんです。

五輪会場外で貢献した大崎さんの活躍ぶりが、令和元年の朝日新聞

夕刊に連載「東京五輪物語—文化交流」として紙面を大きく飾りました。

記事によれば、東京での学生時代、新宿の歌声喫茶「灯」(ともしび)で、「声がいい」とスカウトされ、ステージーリーダーを務めました。各国の選手のリクエストに応え、3000曲のレパートリーを駆使して世界の民謡を、その国の言葉で披露すると大歓声が上がったそうです。

多くの選手や関係者が訪れましたが、大崎さんは「イタリアの選手が来た時が一番盛り上がりました。五輪の思い出は競技より歌声です」と懐かしんでいました。

### 世界の民謡を外国選手に披露

## 新宿の「灯」でステージーリーダー

「集いの広場」ができたよ。青陵創立110周年記念事業の最後、本館と第2館との間にある中庭の整備が令和2年8月に完了しました。前年完了の予定が他の工事と重なり、5月に着工しました。

広さ520平方メートルの中庭はアスファルト舗装でしたが今回、薄い茶

色のブロックを敷き詰めるインタロックキング舗装にしました。施工はOBの大山雅章さん(28期)の経営する老龍園緑化(株)です。創立記念事業費1500万円を充てました。

「集いの広場」は生徒から募集して名付けたもので、学年集会や青陵祭など学校行事に広く活用します。

### 「集いの広場」完成 記念事業表紙の写真

### 令和元年度末の主な教職員異動

転任	主幹教諭	頭	金井 庸記 (一三年)	芸術
岡山城東	教諭	西森 裕子 (二一年)	国語	主幹教諭
高 梁	主幹教諭	木村 淳二 (二一年)	理科	教諭
岡山朝日	教諭	尾崎 基文 (二九年)	理科	教諭
岡山後楽館	教諭	直哉 (二〇年)	保健体育	教諭
倉敷商業	教諭	前花 直哉 (二〇年)	保健体育	教諭
岡山城東	主 任	中島 佳美 (三〇年)	事務	主任

### 主幹教諭金井氏、城東教頭に

着任	主幹教諭	国語	中原 晋介 (倉敷市教委)
教諭	理科	田中 武 (高 梁)	
教諭	理科	外川 博幸 (玉 島)	
教諭	保健体育	佐藤 朋信 (玉野商工) 青陵55期	
教諭	芸 術	西川紗絵子 (健康の森支援)	
事務部長	事 務	大崎美由紀 (早島支援)	
退職			
教 諭	青陵商教諭から再任用教諭へ	大橋 賢二 (二八年)	英語
教 諭		水川 俊昭 (三〇年)	芸 術
事務部長		中務 進 (三〇年)	事 務

## 青陵、2回戦進出

### 夏季岡山県高校野球

コロナ禍の影響で、夏の甲子園につながる全国高校野球岡山大会が中止になり、それに代わる夏季岡山県大会が令和2年7月に開幕しました。

青陵は1回戦、初回から好調な打線が得点を重ね、勝山に六回コールド勝ちしました。2回戦は甲子園出場経験のある玉島商に好ゲームの末、敗れました。

2試合ともエース矢吹彰大(あきひろ)投手が3年生が完投しました。

スコアは次の通りです。

▽1回戦

勝山	1000000
青陵	131033x11

▽2回戦

青陵	000000000000
玉島商	0020000010x3

# 注目された新聞の長期連載半生記

洋画の道70年

福島隆壽さん（元在職教員）

令和元年

6月から9月に

かけて、山陽新聞の長期

連載「伝みらいへ」（文化面）と「人生

を語る」（地方経済面）に相次いで青陵

関係者が登場、読者の関心呼びまし

た。分野の違う2人はともに多くの輝

かしい実績を積み現在も現役として

活躍しています。

「伝みらいへ」の主役は洋画の道70

年の福島隆壽さん（中帯江在住）で、青

陵高校へは昭和40年から14年間、美術

教諭として勤務しました。昨年1月、

倉敷で青陵や鳥取大学教育学部時代の

教え子らが「福島隆壽とその教え子

達」展を開催、洋画ファン注目を集

めたばかりでした。

連載は文化面半ページにわたり4

話で構成されています。インタビュ

ーに答え、小学生時代から洋画を極める

までを平易に語り読みやすい記事に

まとまっています。大きな写真ととも

に、「戦後手にした喜びの匂い」「本

物に感激しつ放し」「裸婦群像で風

土表現」ときて、最後に

「教え子たちと学

び合い」と



福島隆壽さん④と岡荘一郎さんの山陽新聞連載記事

いう謙虚な内容で結んでいきます。

「人生を語る」は倉敷を代表する

経済人、10期生の岡荘一郎さん（羽

島在住）です。倉敷製帽を創業した父

の体調不良で、青陵在学中に大学進学

を断念して跡を継ぎ60年、作業帽的

を絞り全国のトップメーカーに育て

上げた敏腕経営者です。

連載は記者がまとめた16本にわた

る長編です。子ども時代から「裕福な

家庭 戦争で一変」「ごちそうは卵か

けご飯」と苦勞、農業を断念し起業し

た父と「岡山県で一番『目指す』を实

現、危機を乗り越え次男への社長代替

わりを成功させました。

経済活動にも力を入れ「屏風祭復

活、天満屋誘致、会議所会頭就任など

で倉敷美観地区活性化に尽力、現在も

「公職はいまだに50を超える」とあり

ます。

成功体験の2人の半生記は、「自分

の表現を追究（福島さん）、「努力では

なく精進（岡さん）」という結晶度の高

い言葉を紡いで連載を締めくくって

います。

詳しくは連載記事を読

んでみてください。

思い出の1枚

## 倉女最後 40期の4年生進級写真



昭和22年4月、倉女の生徒が4年生に進級した時のクラス写真です。1クラス30人が5クラスありました。津枝惇校長と上田先生、生徒57人が写っています。生徒数からして2クラス合同写真かもしれません。あれから73年になり、写真はセピア色になってはいるものの、一人ひとりの顔がはつきり分かりますが、写真を提供してくれた小原（旧姓吉田）学美さん（西田在住）は「私がどこにいたのか分からない」と、苦笑いしていました。この学年は2年後、倉女最後の40期卒業生となりました。

# 十人十色の人生「みんなちがって、みんないい」

台風19号が日本列島を直撃した直後のクラス会。令和元年10月13日、倉敷市内の日本料理店で10人が参加して開催した。81歳になる恩師の野上先生は、クラスメートの一人として参加。67歳になる我々と違和感は

## 22期 3年8組クラス会

なかった。奥様の介護で多忙な中の参加に感謝の気持ちでいっぱいだった。

今回の参加者も4年前と同様に自分の人生を生き抜いていた。3日前まで脳梗塞で入院していた彼もいた。また、神道山の茶会より駆け付けた彼女は、「実家の蔵を倒してお宝を売った。売る時は只みたかった」と嘆いていた。別の彼女は「日々楽しいことをすればよい」と断言。4日前は姫路城、その前は中尊寺、毛越寺では「夏草や兵どもが夢の跡」の芭蕉の句を堪能。また別の彼女は、新幹線のトイレに携帯を忘れたが、掃除係の人のおかげで手元に返ってきた。人間捨てたもんじゃな。娘さんがガンにかかり、岡大から千葉の病院に転院。奇跡的に回復し、退院当日娘のチャアリーダー仲間のサプライズに迎えられる。今では教員生活を楽しんでいるという。元教員の彼は、教壇で憲法第9条の戦争放棄・平和主義は非常に大切だと言った手前、倉敷9条の会で奮闘中。また原発にも反対といった手前、さよなら原発倉敷金曜アクション



十人十色の人生を語り合ったクラス会

ン（10月11日で連続377回目）にできるだけ参加しているという。朝の5時に起きて仕事をしている彼は、自営なので年金は微々たるもの。「4年後のクラス会まで元気でいたい」。10年前から教員に復帰した彼女は、白衣の天使として「私、失敗しないので」とどこかで聞いたセリフを駆使しながら、実験の授業に励んでいる。夫が今年の5月に叙勲を受けた彼女は、「新天皇陛下のにこやかな笑顔にオーラが漂っていた」と嬉しそうに話してくれた。さらに、ロボットスーツで将来、「脳梗塞の人が歩けるようになるかもしれない」と科学の進歩を絶賛。別の彼女は、94歳の姑が3歳のひ孫と映った写真を見て、「私も年を取ったなあ」と一言。数年前までは友と海外旅行していたが、今は姑のこともあり1泊がせいぜい。旅館をM&A（売買）で手放した彼は旅行好き。「アウシュビッツは人間として見ておかなければならない」ときっぱり。来年はイスラエルへ行くという。総社で外国人に日本語を教えている。

十人十色の人生に「みんなちがって、みんないい」の金子みすゞを思い出し、残りの人生をどう生きるか、しばし考えたクラス会でもあった。高校時代そんなに親しくしていた人ばかりではなかったが、心温まる時間が流れた。そして、予定の2時間があっという間に過ぎ去ってしまい、もう少しみんなと一緒にいたいと思いつつ4年後の再会を誓い合った。余韻の残るクラス会であった。

（正保宏文）

## 同窓会 過去のしがらみ 皆忘れ



4年ぶりに大勢集まった38期のメンバー

## 38期同窓会 第一線で社会を支える80人

令和2年1月4日に倉敷アイビースクエアで開きました。オリンピックの年に開催し、学年全員が集まるのは4年前に次いで2回目です。中山薫先生ら恩師5人をお招きし、東京から沖縄まで約80人が集まりました。遠路、子ども連れの参

加者もいました。みんな、公務員や教員、医師、メーカー勤務など第一線で社会を支える気概にあふれ、大いに盛り上がりました。（児島圭談）

別刷りへつづく

# 会員ミニ点描

(令和元年、2年/現役を含む、学年は当時)

**[受賞・受章]** 令和元年10月、2019年度県統計グラフコンクール入賞作品の発表があり、藤原伊織さん(3年)が最優秀賞=写真①=の1人に選ばれました。❖暴力追放・銃器根絶運動推進県民大会が同年10月、岡山市内で開かれ銃器根絶ポスターコンクールで藤原伊織さん(3年)が優秀賞を❖同年11月の秋の叙勲で、元高梁市立宇治高校長河田義正さん(元在職教員)が従五位、元倉敷東小校長安原信一郎さん(17期)が瑞宝双光章を❖牧田唯さん(3年)が同年11月、倉敷署などから善行少年として幅広いボランティア活動に対して、けがをした登校中の小学生を救助したことがあります❖同2年2月、「高校生絵のまち尾道四季展」で石川楓果さん(2年)の「休息」が最優秀の尾道賞に。桟橋に停泊する定期船をセピア調で描きました。副賞はフランス研修旅行です❖岡山一宮高校長赤木隆さん(29期)が同年2月、令和元年度教育者文部科学大臣表彰を❖高梁川流域連盟の第20回高校生絵画展が同年3月に倉敷市立美術館で開かれ、青陵1年生8人が出品、板谷実歩さんが特選、碓井麻木さんが佳作に選ばれました❖元玉野光南高校長の和気誠さん(18期)が同年4月の春の叙勲で瑞宝小綬章を❖倉敷市消防団の守安隆一さん(19期)が同じく瑞宝小綬章を❖同年6月、高齢者叙勲で元庄小校長笠原伸一さん(2期)、元老松小校長見持恭彦さん(3期)が、いずれも瑞宝双光章を❖倉敷市議会議員藤原(現姓鳥井)薫子さん(44期)が同年6月、中国市議会議長会から議員12年以上で❖第10回こども夢二新聞の審査が同年9月に行われ、安延穂香さん(2年)が山陽新聞社読者局長賞を。

**[就任]** 倉敷商工会議所副会頭伊澤正信さん(20期)が令和元年10月の役員改選で再任されました。任期は3年です❖高槻信博校長が同2年4月、県高校長協会副会長に。任期は1年です❖山陽新聞社取締役の佐々木善久さん(26期)が同年7月、山陽計算センター社長を兼務しました。

**[優勝]** 令和元年9月に開かれた高梁川流域中学・高校リレー大会の女子400mリレーで、青陵チーム(中村菜子、虫明愛美、藤井理帆、中尾佑衣)が優勝しました❖同2年9月の同大会では男子400mリレーで青陵チーム(向井大貴、檀上亜里、室山侑輝、稲垣陽天)、女子同で同(植田結衣、渡邊菜穂、山口紗知、中務晃葉)、同1600mリレーで同(渡邊菜穂、中村菜子、香西真帆、藤井理帆)がいずれも優勝しました。

**[水球]** 第12回全日本ユース選手権「桃太郎カップ」が同年12月に倉敷市内で開催され、笠原かをさん(1年)が主将、森高遥風さん(同)が主力を務める岡山県選抜女子は健闘したものの、決勝トーナメント進出はなりませんでした。

**[演劇]** 女優旺なつき(本名・室山こずえ)さん=26期=が令和元年11月10日、倉敷市芸文館で「ブックショップ」に。久々の里帰り公演でした。

**[演奏会]** ピアニスト松本和将さん(49期)が同2年7月、玉島でベートーベン・ピアノソナタ全32曲の演奏会をスタートさせました。5回に分け1年がかりです。

**[CD制作]** ピアニスト阿部篤志さん(45期)が同年7月、「0(わか)」を作って発売しました。女性演奏仲間とのデュオで全オリジナル11曲を収録しています。1枚2500円(税抜き)です。

**[展覧会]** 日展会友の洋画家後藤晋さん(27期)が令和

**第5部 (高校生以上、一般の部)**  
岡山県立倉敷青陵高等学校 3年 藤原伊織  
LGBTとは、性的少数者、セクシャルマイノリティを表す言葉の一つです。人権問題をテーマに、繊細かつ丁寧に描いている点など、見やすく描かれている点が高く評価されました。



写真①  
写真②  
←写真③



元年9月、倉敷市内のギャラリーで初の個展を。力作34点を展示しました❖酒津焼の岡本研作さん(26期)が同年9月、倉敷天満屋で開窯150年記念展を=写真②=。花入れや茶碗、鉢など約80点、さらに、バーナード・リーチらこれまでに来訪、指導を受けるなどゆかりの作家の作品も展示しました。同じ趣旨で弟の和明さん(36期)が同年12月、同市内のギャラリーで約80点を出品しました❖同年10月に倉敷市内のギャラリーで開かれた第39回青少年健全育成チャリティの倉敷現代工芸秀作展に青陵卒業の岡本達弥(44期)、岡本篤(13期)、岡本和敏(44期)、川上節子(18期)、岡本研作(26期)、岡本和明(36期)、武内立爾(29期)=以上陶芸、佐藤史男(19期)=木彫=の皆さんが出品協力しました❖美術家松井えり菜さん(53期)が同2年4月~5月、岡山県立美術館で企画展を開きました。紙芝居「桃太郎」の原画の名場面を展示しました❖天神堂の岡本篤さん(13期)が同年6月、岡山天満屋で喜寿記念展を開き、天目茶盤や花瓶など近作五十余点を展示しました。

**[1000種到達]** 農林省O Bの荒木武夫さん(5期)が平成24年に開設した樹木検索図鑑サイト「葉と枝」の掲載植物が令和2年3月、8年がかりで目標の1000種に。アクセス数は94万件(11月現在)にのぼります。

**[表紙を飾る]** 同元年7月の全国高校総合文化祭に出場、ベスト8に入った青陵高校競技かるた部が、同年12月22日付の山陽新聞「さん太タイムズ」の表紙を=写真③=。部員が勢いよくかるたをはじく特訓風景が迫力ある特大写真で掲載され、活躍する同部の存在を県内にアピールしました。

**[生前葬]** 元不動産業明石豪夫(ひでお)さん(10期)が令和元年11月23日、神奈川県藤沢市内の料理店で。「元気なうちに一献差し上げたい」という気持ちで行いました。同期15人を含む友人ら約55人が参列しました。

**[中止]** 京都大学大学院教授森和俊さん(28期)らをテーマにした創作ミュージカルが令和2年に児島で上演される予定でしたが、コロナ禍のため。

**[同窓会入会]** 令和2年2月、今春の71期卒業生314人が入会しました。卒業生は累計3万4638人となりました。感染症対策のため式は中止、岡田同窓会会長のメッセージを印刷、卒業生に配布しました。同窓会から卒業生へ入会記念品の卒業証書ホルダーが贈られました。

**[訂正]** 本紙第51号「会員ミニ点描」の「展覧会」の文中、羽島焼の「小河原和子さん(9期)」を削除します。訂正してお詫びします。

**<お詫び>** 編集の都合上、取材・依頼・寄稿原稿が掲載漏れになる場合があります。ご容赦ください。次号に最優先で掲載します。

## 2021年の予定

### 本部総会

8月1日(日) 午前10時から  
倉敷アイビースクエアのエメラルドホール  
〈当番幹事〉7、8、9、0の付く期と71、72期

### 東京青陵会

6月26日(土) 午後4時から  
東京・明治記念館

### 近畿青陵会

5月30日(日) 正午から  
大阪・KKRホテル

### 九州青陵会

10月9日(土) 午後4時から  
福岡・西鉄グランドホテル

(以上、変更・中止の可能性あり)

### 編集を終えて

●…人類は戦争と疫病の歴史—とされています。とは言え、戦後75年間、憲法により平和を保ってきましたが、もう一方の疫病(新型コロナウイルス)が世界中に蔓延するとは全く予想していませんでした。疫病との闘いは日本も古く、奈良時代にはやった天然痘を退散させるために造営したのが、あの大仏さんです。平安後期に始まった吉備中央町の「加茂大祭」は「悪い病氣、退治が起源」とされています。幕末の緒方洪庵は天然痘の治療に心血を注ぎました。明治の北里柴三郎はペスト菌を発見、野口英世は黄熱病の研究で命を落としました。後藤新平は日清戦争後の帰還兵の検疫でコレラの蔓延を水際で防ぎました。

●…伝統的に日本の医学者は感染症へ積極的に対応、定着している国民のマスク文化など衛生観念は高く、今回も世界に注目されています。「なぜ日本はコロナ死が少ないのか。薬でもあるのか？」と外国人に問われ、「民度が違う」と言い放った大臣がいましたが、幸い「えらそうな」という声はありませんでした。日本の先進医学の力でコロナ禍を終息させてもらうことを願っています。

(編集主幹・佐藤豊行)

## 岡山県立倉敷青陵高校「同窓会だより 青陵」第52号

発行 岡山県立倉敷青陵高校同窓会  
[事務局] 〒710-0043 倉敷市羽島1046-2 TEL:086-422-8001 FAX:086-422-8004  
e-mail: seiry05@pref.okayama.jp URL: http://www.seiry0.okayama-c.ed.jp  
発行人 岡田展弘(25期) / 編集委員 今岡道雄(13期) 佐藤豊行(18期) 林俊輔(28期)  
顧問 加川英郎(4期)  
印刷 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172  
お願い 同期会や同窓生の情報、話題を佐藤豊行(編集主幹090-6438-9227)、林俊輔(青陵高校教諭)へお寄せください。

〔本紙の編集〕  
\*原稿締め切りは毎年9月20日です。編集、校正作業を経て12月末に全卒業生にお届けします。  
\*幹事の当番期に拘わらず、広告掲載をお願いしています。1枠5000円です。

## 難波行彦先生(国語)



教員生  
活の傍  
ら、県詩  
人協会会  
長などを  
務め、長

年、岡山詩壇のリーダーとして活躍した難波行彦先生が亡くなられたのが令和になって間もなくの6月28日でした。  
青陵高校では昭和33年から41年までの8年間、古文(古典)など国語を担当、文学部の顧問でした。部の

## 生と死の意味を問う求道者

発行する『青陵文芸』の件でよく校内放送をしていたのを思い出します。ゆつくり、厳かな口調でした。

難波先生には「井奥行彦」という名の詩人の顔がありました。岡山大学在学中に同級生と詩誌『火片』を創刊、年3回のペースで発行、平成30年には誌齢200号に到達しました。県内最長寿の詩誌です。

## 詩作

生と死の意味を問う  
求道の詩作70年、詩集を  
8冊刊行して日本詩人  
クラブ賞、岡山県三木記  
念賞、文部科学大臣賞な  
ど多くの賞を受賞しま  
した。同29年5月には妻  
で詩人のなんば・みちこ

## 宝福寺におしどり顕彰碑

さん(元小学校長)とのおしどり顕彰詩碑が先生の地元、総社市の宝福寺境内に完成しました。  
文化振興への貢献をたたえようと一同市の文化関係者らが建立したものです。除幕式には夫妻がそろって出席、謝辞を述べました。  
詩碑には「宝福寺本堂で」と題する「かたくなに 閉じていた心がここへ来ると扉のようにすなおに開く」という代表作の一編が刻まれ、観光客や詩のファンを魅了しています。  
自らの顕彰詩碑を見届けた2年後、米寿での旅立ちでした。



難波行彦先生夫妻の顕彰詩碑(上の段が難波先生の作也) 総社市宝福寺

## 追憶 研鑽70年 恩師

著名な詩人と歴史学者に。青陵高校在勤の後、その世界で岡山県内外にその名を刻んだ恩師がおられます。国語の難波行彦、日本史の柴田一の両先生です。最近、相次いで惜しまれつつ亡くなられました。改めて、青陵時代の足跡とその後の活躍ぶりをたどり、顕彰するものです。

## 近世史

庄屋制や家族構成、年貢、高瀬舟、塩業などの研究を進め、36歳の若さで500ページに及ぶ大著「近世豪農の学問と思想」を上梓、世間の注目を集め近世史の世界に躍り出ました。



新聞に掲載された柴田一先生の追悼記事

それからの活躍は目覚ましく、「津田永忠」や「岡山県の歴史」などの著作を重ね、県立博物館主任学芸員から兵庫教育大学教授に転じました。「近世大名領国経営の研究」で広島大学から博士(文学)の学位を授与されました。その後、就実女子(現就実)大学教授、学長を歴任されました。

近世史研究一筋70年です。後進へのメッセージとして「基本的には人間の研究です」という言葉で締めくくられています。

## 36歳で大著「豪農の学問と思想」

やや旧聞になりますが、歴史学者(近世史)の柴田一先生が平成29年9月、米寿を迎える年に亡くなられました。

青陵高校には昭和35年から39年までの4年間在任され、日本史を担当しました。「同窓会日より 青陵」第51号には「追悼そして感謝 元就実大学学長 柴田一先生 16期2年5組一同」という大きな広告が載りました。

担任してもらった同組の教え子の一人、三宅邦和さんは「広告は(先生の死去後)すぐ話が出たんですが、やっと実現しました。話が面白い

## 学芸員から大学教授、学長に

愉快的な授業でした。2年生が終わった春休みに先生とみんなで後楽園に行った思い出がありますねえ。クラス同窓会には気軽に来てくれて、いきなり独演会ですよ。昨今の社会事情をね。気さくな先生でした」と恩師をしのんでいます。追悼広告という粋な計らいで師の恩に報いたのでした。

死去後間もなくの平成29年9月29日、親交の深かった岡山県立記録資料館長・定兼学さんによる追悼記事「人に寄り添い地方文化研究」が新聞に掲載されました。それによるとー。

岡山大学の1期生として、岡山藩研究の権威・谷口澄夫先生に師事してこの道に分け入りしました。高校教員の傍ら

## 柴田一先生(日本史)